

◆◆◆ “東日本大震災” に対する宇陀市の対応 【第 3 8 報】 ◆◆◆ (所管：危機管理課)

- 6 月 7 日 宮城県気仙沼市に派遣されている行政支援チーム第 6 班（藤本・前田組）から報告メールが着信しました。主な内容は以下のとおりです。
- ⇒ 被災地も半袖シャツで十分な気候になってきたこと。それに伴って配布する食事にも気を使い、食中毒の予防について注意喚起していること。
  - ⇒ 6 日には萩本欽一さんが慰問に訪れ、避難所が一気に明るくなったこと。
  - ⇒ 館内清掃に併せて、廊下の一部をワックスがけしたことなど、支援メンバーの得意分野を生かして業務に励んでいること。
- 6 月 8 日 宮城県気仙沼市に派遣されていた行政支援チーム第 6 班（藤本・前田組）が午後 10 時半頃に帰庁しました。第 1 クールの行政支援はこの班で終了しますが、今月下旬から第 2 クールの行政支援が計画されています。

◆◆◆ 本日のニュース ◆◆◆ (所管：危機管理課)

- 6 月 10 日 奈良県銘木協同組合宇陀支部が宮城県気仙沼市の 7 ヶ所の避難所へ送った「吉野杉の杖」600 本について、市の職員が派遣されていた市民会館避難所の館長から、市長に対して礼状が届きました。

◆◆◆ 定時降下物や上水における放射性物質について ◆◆◆ (所管：危機管理課)

- 5 月 20 日 県は、4 月 1 日から 1 ヶ月間に採取した降下物（1 ヶ月間の累積）から、下記のとおり放射性物質が検出され、本県ではセシウム 134 とセシウム 137 は過去 3 年間検出されていないことから、福島第一原子力発電所事故の影響ではないかと考えられると報道発表しました。
- ただし、検出された放射線量はごく微量で、この降下物から 1 年間に受ける放射線量は 0.124 マイクロシーベルト/年に相当し、自然界から 1 年間に受ける放射線量（2400 マイクロシーベルト/年）の 1 万分の 1 以下に相当する極めて低い値であり、健康に影響はない。ということです。
- ⇒ 試料の採取期間と採取場所：平成 23 年 4 月 1 日～平成 23 年 5 月 2 日 奈良市（県保健環境研究センター）
  - ⇒ 放射性物質：ヨウ素 131                    10.3 メガベクレル/㎥  
                  セシウム 134                    4.7 メガベクレル/㎥  
                  セシウム 137                    4.5 メガベクレル/㎥ ※セシウムは、大阪府検出値（4 月採取分）の約半分の値
- なお、県景観・環境局環境政策課では、今回の福島第一原子力発電所事故に伴い、文部科学省からの委託を受けて環境放射能調査を強化し、定時降下物と上水（蛇口水）の測定を毎日おこなった結果を県のホームページで公表しています。これまでの毎日の測



⇒ 公的 (UR) 賃貸住宅 : 入居可能予定数 80 戸      内) 入居決定 3 戸 (入居人数 : 6 人)

⇒ 公的 (雇用促進) 住宅 : 入居可能予定数 68 戸      内) 入居決定 1 戸 (入居人数 : 4 人)

平成 23 年 6 月 3 日 16 : 00 現在

**※過去に記載が漏れていたものも掲載しています。また、配信後に情報が入ったものについては翌日以降の掲載になります。併せてご了承下さい。**